

4 兩生類

4 両生類

県内では 8 科 23 種の両生類が生息している（外来種 1 科 1 種を含む）。今回、選定されたのは 14 種で、絶滅危惧Ⅰ類が 1 種、絶滅危惧Ⅱ類が 8 種、準絶滅危惧が 4 種、情報不足が 1 種である。このうち、生息状況の変化や個体数の増減によってカテゴリーを変更した種はないが、新種記載や和名変更に伴って、新たな 7 種に新カテゴリーを充てた。

有尾目サンショウウオ科の旧名カスミサンショウウオは 9 種に分割整理された。その内、本県に分布している種はイワミサンショウウオ、アキサンショウウオ、セトウチサンショウウオ、ヒバサンショウウオの 4 種である。4 種の分布域は大まかには把握されているが、カテゴリーは旧名カスミサンショウウオのカテゴリーを踏襲した。また、旧名ブチサンショウウオは 3 種に分割整理された。そのうち広島県域に分布している個体群は、中国地方の集団であるチュウゴクブチサンショウウオである。カテゴリーは旧名ブチサンショウウオのカテゴリーを踏襲した。西中国山地ではハコネサンショウウオとシコクハコネサンショウウオの混棲が報告されているが、今回、新たに 2 地域で混棲が確認された。ハコネサンショウウオは旧豊松村の個体群が極めて危険な状況にあるが、中国山地脊梁部付近に生息している集団は安定していると考えられるため、従来のカテゴリーを踏襲した。一方、シコクハコネサンショウウオの確認地点は 2 地域であり、生息状況も把握されていないため情報不足とした。今回、本県の有尾目全種（10 種）が選定されたことになるが、今後、西日本豪雨の被災地域やその周辺の溪流や支流では生息情報を集積し、個体数の確認調査が望まれる。

無尾目（カエル類）は選定種やカテゴリーに変更はなかった。しかし、種によっては個体数がやや減少している種もあった。ニホンヒキガエルは比較的良好な生息地が県中央部まで後退し、都市近郊での確認例が少なくなり、繁殖地に出てくる個体数も減少していることから注意が必要である。なお、沿岸域に近い竹原市忠海の黒滝山では 4 年続けて繁殖が確認され、東広島市の洞山でも繁殖が確認された。また、呉市の倉橋島、下蒲刈島や吉松山、廿日市市の経小屋山や極楽寺山でも小さい生息地が飛び石状に残っていることが新しく確認されたことは朗報である。絶滅危惧Ⅰ類のナゴヤダルマガエルは、既知の生息地では幼生の再導入や域外保全により、絶滅は回避された。現在も地域住民により保全活動が行われており、個体数も増加している。近年、庄原市や福山市で大きな生息地が確認された。一方、吉舎町海田原の生息地では幼生の再導入によって個体数を辛うじて維持している状況であるが、高齢化に伴い、米作りを止める農家も多く、水田環境の維持には長期的な視野に立って考えねばならない課題が残されている。三次市では 2020 年に市条例による希少野生動植物に指定された。

県内に生息する両生類のうち、希少種が占める割合は、2003 年に 50%、2011 年に 53%、今回の調査で 59% となり、徐々に希少種の占める割合が増加している。普通種が生息する水田の周辺に、放棄水田やソーラーパネルなども散見され始めた。除草剤や農薬、「中干し」に伴う生物的課題以上に、高齢化による社会的課題もカエル類にとっては、今後、深刻な問題となっていくことは必至である。なお、学名などは日本爬虫両棲類学会 Web サイトの日本産爬虫両生類標準和名リスト（2020 年 10 月 14 日版）に従った。

（爬虫類・両生類調査部会）

両生類選定種

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

- 1 ナゴヤダルマガエル

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

- 1 オオサンショウウオ
- 2 イワミサンショウウオ
- 3 アキサンショウウオ
- 4 セトウチサンショウウオ
- 5 ヒバサンショウウオ
- 6 ヒダサンショウウオ
- 7 ハコネサンショウウオ
- 8 ニホンヒキガエル

準絶滅危惧 (NT)

- 1 チュウゴクブチサンショウウオ
- 2 アカハライモリ
- 3 トノサマガエル
- 4 ニホンアカガエル

情報不足 (DD)

- 1 シコクハコネサンショウウオ

ナゴヤダルマガエル 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Pelophylax porosus brevipodus (Ito, 1941)

カエル目(無尾目) アカガエル科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	東海・近畿・瀬戸内海沿岸地方の水田に生息する日本固有亜種である。岡山種族と名古屋種族に区別されており、鳴声や形態に差がある。岡山種族は背中線が欠き、地色の体色は茶褐色の個体から、頭部から背中にかけて緑色をした個体まで変化に富む。背中には独立した黒い大きな丸い斑紋が数個あり、腹面には薄黒い斑模様がある。トノサマガエルと比較すると後肢が短く、大きなジャンプはできない。亜種名の「 <i>brevipodus</i> 」は「短足」という意味。鳴声は「ギューイ ギューイ」と鳴き、トノサマガエルの「グルグル」とは異なる。本県は本州のほぼ南西限に位置している。
生息・生育状況	海田原地区は安佐動物公園による放流により維持されていたが、もっとも密度の高い水田が耕作放棄され、2020年にはコールバックはなかった。安田地区は2019年の調査で1,590個体が確認され、下郷・中郷地区に拡大している。門田・川手地区は生息域も広く、安定している。小谷地区(移入)は耕作水田が狭く、放流も不調に終わり、注意を要する。竹田地区は耕作水田も多く、2020年に確認されたので、地域への広報活動が保護につながる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	高齢化により水田の放棄、草地への遷移、品種の変更、コムギ・大豆栽培への転作による繁殖環境の減少、ソーラーパネルの設置による水田の減少など、生息地の減少により、個体数の減少や絶滅が予見される。多くの地主が高齢化のため大規模経営農家や農業法人に耕作を依頼し、冬季に小麦栽培が始められた。その水田では田植えは6月中旬から下旬に行われるため、本亜種の繁殖環境にならず、個体数の減少が予見される。
特記事項	いずれの生息地でも、近い将来、農業の高齢化により、生息地の放棄が心配される。本種の生息環境は水田のみであり、水田農業を維持することが、本種を絶やさない方法である。以前から言われていた、農薬・除草剤よりも稲作方法や高齢化による水田放棄の影響の方が大きいので、生息地を管轄する行政による稲作への補助が期待される。天然記念物や条例指定種への指定では守り切れないと考えられる。県指定野生生物種、三次市希少野生動物種。
産地情報	福山市(福山, 神辺), 三次市(吉舎, 三良坂), 庄原市(庄原), 世羅町(甲山)

内藤順一・井藤文男 2020. 広島県世羅町小谷のナゴヤダルマガエル. 比婆科学, 268: 23-29. 2 pls.

内藤順一・福場健二 2020. 広島県吉舎町安田のナゴヤダルマガエル. 比婆科学, 270: 11-22. 2 pls.

(内藤順一)

オオサンショウウオ 絶滅危惧 II 類(VU) VU-①, VU-②

Andrias japonicus (Temminck, 1836)

サンショウウオ目(有尾目) オオサンショウウオ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	岐阜県以西の本州・四国・九州に分布する。おもに河川の上・中流域に生息するが、小河川で繁殖確認例が多い。全長 500~800 mm 程度で、1000 mm を超える個体は少ない。完全水生で移動の時などを除き、水中から出るとはほとんどない。夜行性で隠遁性が強く、昼間は石の下などに潜み、サワガニ、魚類など選り好みせず捕食する。繁殖期は8月下旬~9月中旬、雄は河岸の横穴などを産卵巣穴として占有し、巣内の砂を掻き出して巣作りをする。雄は巣内の卵や幼生を保護する。野外における寿命や成熟年齢は不明であるが、飼育観察から変態に4~5年、成熟には10年以上かかり、長いものでは70年以上生存すると考えられている。
生息・生育状況	県北部の河川に広く分布し、太田川・江の川・高梁川の上流域で個体数が多い。広範囲で個体数が減少していると思われるが、比較可能な過去の資料がほとんどなく、減少の程度は把握されていない。精度の高い生息調査が行われているのは、北広島町や東広島市など一部の河川に限られていること、再生産がなされていないと思われる大型個体で構成される集団もみられることから、繁殖確認を主体とした県下全域での生息実態調査が必要。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ダムや堰堤によって個体の移動が阻害され、生息地・個体群の分断が生じている。成体は繁殖期移動をするため、河川の本断は個体群に与える影響が大きいと思われる。コンクリート護岸などの河川改修は産卵巣穴を消失させ、各成長段階に適した生息環境を損なうおそれがある。近畿・東海・中国地方の一部でチュウゴクオオサンショウウオとの交雑種が確認されており、県内に侵入すれば在来個体群に深刻な影響を与えるおそれがある。
特記事項	国特別天然記念物、国際希少野生動物種、ワシントン条約附属書 I 掲載種。
産地情報	広島市(東区, 南区, 西区, 安佐南区, 安佐北区, 安芸区, 佐伯区), 呉市(呉), 三原市(本郷, 久井), 福山市(福山, 新市), 府中市(府中), 三次市(三次, 君田, 布野, 作木, 吉舎, 三良坂, 三和), 庄原市(庄原, 総領, 西城, 東城, 口和, 高野, 比和), 大竹市, 東広島市(西条, 八本松, 志和, 豊栄, 安芸津), 廿日市市(廿日市, 大野, 佐伯, 吉和), 安芸高田市(吉田, 八千代, 美土里, 高宮, 向原), 府中町, 坂町, 安芸太田町(加計, 筒賀, 戸河内), 北広島町(芸北, 大朝, 千代田, 豊平), 世羅町(甲山, 世羅西), 神石高原町(油木, 神石, 三和)

桑原一司・中越信和 2009. オオサンショウウオ *Andrias japonicus* の繁殖行動の解析-産卵行動の観察記録と動画資料の解説- 高原の自然史, 14-50. +DVD. 北広島町教員委員会, 広島.

小原二郎 1985. 大山椒魚. 236 pp. どうぶつ社, 東京.

(岡田 純)

イワミサンショウウオ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Hynobius iwami Matsui, Okawa, Nishikawa & Tominaga, 2019

サンショウウオ目(有尾目) サンショウウオ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	体は小型で雄の頭胴長 43~58 mm, 前後肢ともに中庸で, 前肢に対する後肢の割合は小さい。尾は中程度の長さ。常に, 尾の上下縁に明瞭な黄色の条線をもち, 側扁が顕著である。本種はヤマグチサンショウウオ, カスミサンショウウオなどと, 系統的に近いが, それらのすべてと, 通常第5趾を欠くことで異なる。加えて本種はヤマグチサンショウウオより頭が長くて胴が短く, カスミサンショウウオより頭が長くて前後肢の重なりが大きく, 頭胴長が小さく, 胴が短く, 鼻孔間が狭く肋条数が少ない。また, 尾の側扁が顕著である。
生息・生育状況	2019年2月にカスミサンショウウオから分割され, 新種記載された。生息範囲は本州西部の一部に限定され広島県では北広島町芸北に分布する。すでに圃場整備, 砂防ダムの建設, 道路建設, 森林伐採等の開発による生息環境の悪化, 産卵環境の消失があったことに加え, 販売(ネット上での売買), 飼育目的の業者, 愛好家による乱獲が近年とくに顕著である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	圃場整備・耕作放棄による乾燥化・砂防ダムの建設, 道路建設, 森林伐採等の開発による生息環境の悪化, 産卵環境の消失があったことに加え, 販売(ネット上での売買), 飼育目的の業者, 愛好家による乱獲が近年とくに顕著である。
特記事項	2019年2月にカスミサンショウウオから分割され, 新種記載された。広島県では北広島町にのみ分布し, 島根県では益田市から大田市にかけて分布する。国内希少野生動物種。
産地情報	北広島町(芸北)

Matsui, M., Okawa, H., Nishikawa, K., Aoki, G., Eto, K., Yoshikawa, N., Tanabe, S., Misawa, Y., and Tominaga, A. 2019. Systematics of the widely distributed Japanese clouded salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Caudata: Hynobiidae), and its closest relatives. *Current Herpetology*, 38(1): 32-90.

大川博志・奥野隆史・宇都宮妙子 2019. 西日本のカスミサンショウウオの3つの大きなグループ. 日本爬虫両棲類学会, 2019(1): 9-21. (大川博志)

アキサンショウウオ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Hynobius akiensis Matsui, Okawa & Nishikawa, 2019

サンショウウオ目(有尾目) サンショウウオ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	生息範囲は本州西部と四国の一部に限定される。すでに圃場整備・耕作放棄による乾燥化・砂防ダムの建設, 道路建設, 森林伐採等の開発による生息環境の悪化, 産卵環境の消失があったことに加え, 販売(ネット上での売買), 飼育目的の業者, 愛好家による乱獲が近年とくに顕著である。体は小型(雄頭胴長 44~66 mm), 前後肢は比較的短くて2肋皺分離し, 鋤骨歯列は長く幅広い。尾は中程度の長さで通常尾の上下縁に黄色の条線をもたない。また尾の側扁は強くなく, やや丸みを帯びている。卵囊中の卵数が少なく, 片卵囊中で10~30個である。
生息・生育状況	1980年くらいまでは各地での個体数は多かったが, 徐々に個体数が減り, 現在確認されている場所でも産卵時期に卵囊が数対しか見つからないなど, 減少する傾向にある。圃場整備・耕作放棄による乾燥化・砂防ダムの建設, 道路建設, 森林伐採等の開発による生息環境の悪化, 産卵環境の消失などにより, 生息繁殖環境が悪化し絶滅した場所もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	圃場整備・耕作放棄による乾燥化・砂防ダムの建設, 道路建設, 森林伐採等の開発による生息環境の悪化, 産卵環境の消失があったことに加え, 販売(ネット上での売買), 飼育目的の業者, 愛好家による乱獲が近年とくに顕著である。
特記事項	2019年2月にカスミサンショウウオから分割され, 新種記載された。生息範囲は本州西部と四国の一部に限定される。アキサンショウウオの中には移行型というタイプがあり, 幾つかの相違点があり, 今後の研究により別種となる可能性もある。国内希少野生動物種, 東広島市天然記念物(市一円)。
産地情報	呉市(呉), 竹原市, 三原市(三原, 大和, 本郷), 尾道市(尾道, 御調), 三次市(三次, 吉舎, 三良坂, 三和), 東広島市(西条, 八本松, 高屋, 黒瀬, 福富, 豊栄, 安芸津), 安芸高田市(吉田, 八千代, 美土里, 高宮, 甲田, 向原), 北広島町(大朝, 千代田, 豊平), 世羅町(世羅, 甲山, 世羅西)

Matsui, M., Okawa, H., Nishikawa, K., Aoki, G., Eto, K., Yoshikawa, N., Tanabe, S., Misawa, Y., and Tominaga, A. 2019. Systematics of the widely distributed Japanese clouded salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Caudata: Hynobiidae), and its closest relatives. *Current Herpetology*, 38(1): 32-90.

大川博志・奥野隆史・宇都宮妙子 2019. 西日本のカスミサンショウウオの3つの大きなグループ. 日本爬虫両棲類学会報, 2019(1): 9-21. (大川博志)

セトウチサンショウウオ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Hynobius setouchi Matsui, Okawa, Tanabe & Misawa, 2019

サンショウウオ目(有尾目) サンショウウオ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	生息範囲は広島県東部から岡山県・兵庫県・香川県・和歌山県に渡り、カスミサンショウウオ群の中では広域分布をする。広島県では尾道市・福山市に分布するが、大崎上島にも分布し、これは県内で島嶼部に分布する唯一のサンショウウオとなっている。体色はカスミサンショウウオ群の中では普通である。尾の上下の黄条を欠き、イワミサンショウウオほどではないが尾がやや側偏する。体色は黄土色のものが多いが、黒っぽいものも居る。卵囊中の卵数は、やや多く、片卵中の卵数は平均 60 程度で多いものは 100 を超える。繁殖時期は 3 月から 4 月で、人里に近い湿地や緩い流れに産卵する。
生息・生育状況	1980 年くらいまでは各地での個体数は多かったが、徐々に個体数が減り、現在確認されている場所でも産卵時期に卵囊が数対しか見つからないなど、減少する傾向にある。圃場整備・耕作放棄による乾燥化・砂防ダムの建設、道路建設、森林伐採等の開発による生息環境の悪化、産卵環境の消失などにより、生息繁殖環境が悪化している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	圃場整備・耕作放棄による乾燥化・砂防ダムの建設、道路建設、森林伐採等の開発による生息環境の悪化、産卵環境の消失があったことに加え、販売（ネット上での売買）、飼育目的の業者、愛好家による乱獲が近年とくに顕著である。
特記事項	2019 年 2 月にカスミサンショウウオから分割され、新種記載された。国内希少野生動植物種。
産地情報	尾道市(尾道), 福山市(福山, 内海, 沼隈, 神辺, 新市), 大崎上島町(大崎, 木江), 世羅町(世羅西)

Matsui, M., Okawa, H., Nishikawa, K., Aoki, G., Eto, K., Yoshikawa, N., Tanabe, S., Misawa, Y., and Tominaga, A. 2019. Systematics of the widely distributed Japanese clouded salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Caudata: Hynobiidae), and its closest relatives. *Current Herpetology*, 38(1): 32–90.

大川博志・奥野隆史・宇都宮妙子 2019. 西日本のカスミサンショウウオの 3 つの大きなグループ. 日本爬虫両棲類学会報, 2019(1): 9-21. (大川博志)

ヒバサンショウウオ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Hynobius utsunomiyaorum Matsui & Okawa, 2019

サンショウウオ目(有尾目) サンショウウオ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	中国山地の脊梁部を中心に、広島県・島根県・岡山県・兵庫県に渡る。体長はカスミサンショウウオ群ではやや大きく、体色が黒っぽいものが多い。腹面に地衣状斑や、背面に赤色の模様をもつ個体が多い。尾の上下の黄条を欠き、尾の断面は側扁が少ない。ブチサンショウウオやコガタブチサンショウウオのように見える個体も多い。卵囊中の卵数は少なく、片卵囊で 10~30 程度である。本来は中国山地脊梁部の源流部に産卵するが、庄原市などでは 300~400 m 程度の、島根県では 100 m 程度の湧き水にも産卵している。産卵時期はやや遅く、3 月~5 月にかけてである。中国山地脊梁部の源流部や、山地の水温の低い緩い流れなどに産卵する。
生息・生育状況	各地において繁殖に使われる場所はあまり開発にかからない場所が多いが、本種の生息の維持には森林の保全などにより、水質・水量の維持が必要である。今のところ、極端な減少傾向は見られないが、1980 年代と比べると個体数は減っているように思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	繁殖場所は、産地の湿地や源流に近い細流であるが、開発工事などにより破壊されると、その地域の個体群は減少または絶滅する可能性がある。
特記事項	2019 年 2 月にカスミサンショウウオから分割され、新種記載された。学名は本種の発見や研究に深く携わった宇都宮妙子・泰明夫妻に献名された。国内希少野生動植物種。
産地情報	三次市(君田, 布野, 作木), 庄原市(庄原, 総領, 西城, 東城, 口和, 高野, 比和)

Matsui, M., Okawa, H., Nishikawa, K., Aoki, G., Eto, K., Yoshikawa, N., Tanabe, S., Misawa, Y., and Tominaga, A. 2019. Systematics of the widely distributed Japanese clouded salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Caudata: Hynobiidae), and its closest relatives. *Current Herpetology*, 38(1): 32–90.

大川博志・奥野隆史・宇都宮妙子 2019. 西日本のカスミサンショウウオの 3 つの大きなグループ. 日本爬虫両棲類学会報, 2019(1): 9-21. (大川博志)

ヒダサンショウウオ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Hynobius kimurae Dunn, 1923

サンショウウオ目(有尾目) サンショウウオ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	関東・北陸・中部・近畿・中国地方に分布し、西中国山地は本州における西限に位置する。本県では700～1,100 mのブナ帯に生息し、その溪流にある中礫の下面に卵嚢を産み付ける流水性の小型サンショウウオである。繁殖期は3～4月頃と推定され、5月下旬から6月上旬に孵化する。成体の全長は110～140 mmで、黄色の地色に黒褐色の斑模様があり、腹面は灰白色で斑模様はない。幼生は30～55 mmで、灰褐色を呈し、黒斑や外鰓が大きく、四肢の指先に黒い爪をもっているため、チュウゴクブチサンショウウオの幼生と区別される。6～7月頃に60 mm程度の越冬幼生を見かけることもある。
生息・生育状況	ブナ帯に生息するため、大規模林道の造成にともなって滞筋が変わったり、保水力の低下が危惧される。また、土砂が溪流に流れ込み、礫間を埋め、幼生の生息地が壊されている。また、集中豪雨により、土石流が生息環境を壊している地域もあり、その復旧工事による、砂防ダム等が移動の障害となっていると推察される。島根県では、脊梁部に風力発電のプロペラが設置され、その工事用道路の土石が谷筋に放棄され、生息環境を破壊している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	広葉樹林の皆伐、スキー場の造成による皆伐、大規模林道の造成、脊梁部における風力発電用の搬入道路の造成などが考えられる。これらは保水力の低下や滞筋の流れが変えられ、同じ場所で繁殖する小型サンショウウオにとっては脅威である。できれば生息地を保全し、できない場合は移植し、経過観察を行い、保護することが重要である。
特記事項	東中国山地(鳥取・岡山)の個体群と比較すると、西中国山地や中央中国山地の個体群は黄色が鮮やかで、小型サンショウウオのなかでも奇麗であることから、人気があり、インターネットでは産地を明記して販売されているようである。
産地情報	庄原市(東城, 高野), 廿日市市(吉和), 安芸太田町(戸河内), 北広島町(芸北)

岡田 純・大川博志 1987. 広島県で発見されたヒダサンショウウオの生息地. 両生爬虫類学会誌, 35: 17-19.

宇都宮妙子・宇都宮泰明・大川博志・岡田 純・内藤順一 1996. 広島県の両生・爬虫類. (比婆科学教育振興会編), p. 120-121. 中国新聞社, 広島.

(内藤順一)

ハコネサンショウウオ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Onychodactylus japonicus (Houttuyn, 1782)

サンショウウオ目(有尾目) サンショウウオ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	本州の脊梁部に生息し、日本産小型サンショウウオの中でもっとも分布域が広く、西中国山地の個体群は本州の南西限に位置している。2013年、四国の個体群はシコクハコネサンショウウオ(<i>O. kinneburii</i>)として新種記載された。変態しても肺をもたないため溪流の周辺に生息していると考えられる。幼生は満3年を経て変態するため、溪流には3サイズ(6月で約3.5,7 cm)の幼生が混棲し、背中模様は変化に富む。成体の全長は15～17 cmで、細長く、背中には赤褐色の縦帯が尾柄部まであり、腹面は白い。腹面には斑紋が胸部にあり、シコクハコネサンショウウオとの区別点とされている。
生息・生育状況	繁殖期は5月下旬から6月中旬で、雌雄は滲出水洞内には入り込み、産卵・放精していると推察される。夏季でも水温は8.5℃前後で低く、そのため、発生は遅く、孵化は10月中旬から下旬である。冬季は滲出水洞内に留まり、翌春、滲出水洞から出てくることが多い。保水力のある夏緑樹林が必要である。神石高原町の父賀の個体群は玄武岩の採掘により生息地の破壊が進行し、危機的な状況にある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	標高800～1,100 mのブナ帯に生息しているため、大規模林道、スキー場整備などにより、大規模に伐採されると、保水力が減少する。また、頻発している土石流により、砂泥が堆積し、水生昆虫などが減少している地域がある。吉和冠山ではゴギが放流され、幼生が激減した。島根県では脊梁部に風力発電用のプロペラが設置され、運搬用の道路を造成する際、生息環境が破壊された地域があり、本県でも懸念される。
特記事項	インターネットでは産地を明記して販売されているようである。
産地情報	庄原市(西城, 東城, 高野, 比和), 廿日市市(吉和), 北広島町(芸北), 神石高原町(豊松)

Yoshikawa, N., M. Matsui, S. Tanabe, and T. Okayama 2013. Description of a new salamander of the genus *Onychodactylus* from Shikoku and Western Honshu, Japan (Amphibia, Caudata, Hynobiidae). Zootaxa, 3693:441-464.

東常哲也・内藤順一・宇都宮妙子・宇都宮泰明・岡田 純 1995. 吉和冠山(西中国山地)でハコネサンショウウオの卵を発見. 比婆科学, 168: 1-13. 9 pls.

(内藤順一)

ニホンヒキガエル 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Bufo japonicus japonicus Temminck & Schlegel, 1838

カエル目(無尾目) ヒキガエル科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	近畿, 中国, 四国, 九州に分布し, 在来種では日本最大のカエル。体長は 80~150 mm だが, 変態直後は非常に小さく, わずか 10 mm 程度。また, ほぼ一斉に上陸することが知られている。背面は変化に富み, 黄色っぽいものから赤っぽいものまでさまざま, 背中線がみられる個体もいる。腹面は白地に黒褐色のだんだら模様がある。耳腺および背面の隆起部に毒腺が発達しており, 白い毒液(ブフォトキシン)を出す。成長すると有毒性もあって天敵はかなり少なくなるが, ヤマカガシには食べられる。産卵は早春に行われ, 止水域に集結し, 雄は雌を奪い合う(蛙合戦)。卵塊は特徴的な長い紐状をしており, 数千~14,000 個程度の卵を産む。
生息・生育状況	かつては都市部も含めて全県的に生息していたが, 現在は比較的自然度の高い地域での確認がほとんどで, 局所的である。一部の島嶼部や西中国山地を除いて, ほぼすべての地域で個体数が減少している。良好な生息環境が残っていると思われる生息地でも個体数や産卵数が減少しており, 減少の直接的な要因が不明確な場合がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発行為や土地造成により, 生息地である森林の乾燥化や産卵適地(ため池や湿地)が減少・消失しているため, 改変の際は生活環境と産卵適地双方の保全が必要なだけでなく, 変態(上陸)直後の体長がわずか数 mm であるため, 水域から周辺林への移動がコンクリート側溝隔壁などで阻害されないよう配慮が必要。また, 亜種アズマヒキガエルと交雑が起ってしまうことから, 飼育個体等の放逐は厳に慎まなければならない。
特記事項	—
産地情報	広島市(東区, 南区, 安佐南区, 安佐北区), 呉市(呉, 倉橋, 下蒲刈, 川尻), 竹原市, 三原市(久井), 三次市(三次, 作木, 吉舎, 三良坂), 庄原市(庄原, 総領, 西城, 東城, 口和, 高野, 比和), 東広島市(西条, 八本松, 志和, 高屋, 福富, 豊栄, 安芸津), 廿日市市(廿日市, 大野, 吉和, 宮島), 安芸高田市(八千代, 美土里, 高宮), 安芸太田町(加計, 筒賀, 戸河内), 北広島町(芸北, 大朝, 千代田, 豊平), 世羅町(世羅, 甲山)

内藤順一 2010. 広島県動物誌資料(25). 比婆科学, 233: 1-8.

内藤順一 2010. 広島市動物誌資料(27). 比婆科学, 236: 5-10.

(原 竜也)

チュウゴクブチサンショウウオ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Hynobius sematonotos Tominaga, Matsui & Nishikawa, 2019

サンショウウオ目(有尾目) サンショウウオ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	中国地方の山地に分布する。分類の再検討によりブチサンショウウオは 3 種に分割され, 九州地方北西部にブチサンショウウオ, 九州地方北東部にチクシブチサンショウウオ, 中国地方に本種が分布することがわかった。全長 110~150 mm。背面は茄子紺の地色に銀灰色の地衣状斑紋が不規則にある。県内の繁殖期は 4 月中旬~5 月下旬で溪流の水源付近の石の下や伏流水に集まり産卵する。雌は 1 対の卵のう中に約 10~30 個の卵を産む。幼生は 8~9 月頃に変態を完了するが, 標高の高い地域では一部の幼生は越冬し, 翌年変態する。幼生は明瞭な爪を欠き, 同所的に見られることのあるヒダサンショウウオ幼生は黒爪を有するので区別できる。
生息・生育状況	中国山地脊梁部では産地が多く, 個体数も多いと考えられるが, 沿岸部では局所的に生息し, 個体数が少ない。伐採, 開発により産卵場所が消失した例, 原因不明で水源が枯れ産卵が確認できなくなった例, 県内で採集された個体がネット販売されていた例などがある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	本種は溪流と林床を行き来するため, 水源と森林の両方を保全し, 生態的連続性を保つことが必要である。とくに繁殖の場となる水源に近い谷筋の伐採や沢を横断する林道工事を避ける。マニアや業者による乱獲は脅威となり得る。
特記事項	国内希少野生動植物種, 呉市天然記念物(郷原町大積川上流), 庄原市天然記念物(総領町)。
産地情報	広島市(東区, 安佐南区, 安佐北区, 安芸区, 佐伯区), 呉市(呉, 安浦), 竹原市, 三原市(本郷), 府中市, 三次市(三次, 甲奴, 君田, 布野, 作木, 吉舎, 三良坂), 庄原市(庄原, 総領, 西城, 東城, 口和, 高野, 比和), 東広島市(八本松, 福富, 河内), 廿日市市(廿日市, 佐伯, 吉和), 安芸高田市(吉田, 八千代, 美土里, 高宮, 向原), 熊野町, 安芸太田町(加計, 筒賀, 戸河内), 北広島町(芸北, 大朝, 千代田, 豊平), 世羅町(世羅, 甲山), 神石高原町(油木, 神石, 豊松)

Tominaga A., Matsui M. & Nishikawa K. 2019. Two new species of lotic breeding salamanders (Amphibia, Caudata, Hynobiidae) from western Japan. Zootaxa, 4550: 525-544.

宇都宮妙子・宇都宮泰明・大川博志・岡田 純・内藤順一 1996. 広島県の両生・爬虫類. p. 34-37. 中国新聞社, 広島.

(岡田 純)

アカハライモリ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Cynops pyrrhogaster (Boie, 1826)

サンショウウオ目(有尾目) イモリ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	日本固有種で、本州・四国・九州に分布する。県内では、沿岸部のため池や水田から標高の高い深山の湿地まで広く分布する。背面は黒褐色で腹面は赤や橙色で黒斑がある。腹面の模様については個体差があり、黒斑がないものや全体的に黒い個体もいる。体表の滑らかなサンショウウオ類と間違えることはない。繁殖期になると、雄には青紫色の婚姻色が尾を中心に現れる。求愛行動が特徴的で、雌の前で尾をS字に曲げ細かく震わせる。体内受精で雌は雄の落としした精子包を取り込む。夏頃に変態した幼生は陸上生活を行い、繁殖期になると水辺へ移動する。水生昆虫やオタマジャクシなど動物質のものを食べる。発生や再生の実験材料としても用いられる。
生息・生育状況	県内に広く分布しているが、市街地周辺ではあまり見られなくなった。とくに圃場整備が行われていない山間部の水田やため池などの止水域には現在も安定して生息していると思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	多くの時間を水中で生活する本種にとって、圃場整備による乾田化は大きな脅威である。また、コンクリート側溝による水管理は、水の流れが直線的で流速も速くなるため、遊泳能力が高いとは言えない本種にとっては危険な環境となる。昨今問題となっている耕作放棄地の増加も本種が生息できる環境の消失に拍車をかけている。
特記事項	—
産地情報	広島市(安佐北区, 安芸区), 呉市(呉, 安浦), 竹原市, 三原市(三原, 大和, 本郷, 久井), 尾道市(尾道, 御調), 三次市(三次, 君田, 吉舎, 三良坂), 庄原市(庄原, 総領, 西城, 東城, 口和, 高野), 東広島市(西条, 八本松, 高屋, 黒瀬, 福富, 豊栄, 河内, 安芸津), 廿日市市(廿日市, 佐伯, 吉和, 宮島), 安芸高田市(吉田, 八千代, 高宮), 府中町, 熊野町, 安芸太田町(加計, 戸河内), 北広島町(芸北, 大朝, 千代田, 豊平), 世羅町(世羅, 甲山, 世羅西)

宇都宮妙子・宇都宮泰明・大川博志・岡田 純・内藤順一 2001. 広島県の両生・爬虫類. p. 48-51. 中国新聞社, 広島.

広島県編 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版) レッドデータブックひろしま 2011. p. 99. 広島.

(平山良太)

トノサマガエル 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Pelophylax nigromaculatus (Hallowell, 1861)

カエル目(無尾目) アカガエル科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	本州(関東平野, 仙台平野を除く), 四国, 九州, 北海道の一部(人為移入)に広く分布する。県内でも沿岸部から西中国山地にかけて広く分布し、水田で見られる代表的なカエルである。雌雄で体色が異なり、雄は茶褐色から緑色で、雌は灰白色から暗灰色で、背面に連続した黒色斑紋を多数もつ。また、雄にはあごの左右に1対の鳴嚢をもつ。水田を繁殖場所としている場合、農事歴に影響されているようであり、田植えの準備を終えた水田で卵を産む。かつては、産卵期に多数の雄が雌を奪い合う蛙合戦が見られたが、近年ではなかなか見られなくなってきた。成体は動物食で、ミミズや昆虫、同種を含むカエルなど動くものに素早く反応する。
生息・生育状況	圃場整備の完了した平野部の水田や、山間部でも放棄された乾田化した水田ではほとんど見られなくなってきたが、里山環境が残されている地域では多い所も残っている。かつては広島市内でも普通に見られたが、高度経済成長とともに激減し、近年は横ばい状態だと思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	本種は、水田やその周辺環境に依存した種であると考えられるため、圃場整備による乾田化やコンクリート側溝による水管理などの急激な環境の変化は脅威となる。また、近年各地で問題となっている耕作放棄地の増加なども本種を脅かす要因と考えられる。
特記事項	—
産地情報	広島市(安佐南区, 安佐北区, 安芸区, 佐伯区), 呉市(呉, 倉橋, 蒲刈), 竹原市, 三原市(三原, 大和, 本郷, 久井), 福山市(福山, 神辺), 府中市(府中, 上下), 三次市(三次, 吉舎, 三良坂, 三和), 庄原市(庄原, 総領, 東城, 高野, 比和), 大竹市, 東広島市(西条, 八本松, 志和, 高屋, 黒瀬, 福富, 豊栄, 河内, 安芸津), 廿日市市(廿日市, 大野, 吉和, 宮島), 安芸高田市(吉田, 八千代, 高宮), 江田島市(大柿), 府中町, 熊野町, 安芸太田町(加計, 戸河内), 北広島町(芸北, 大朝, 千代田, 豊平), 世羅町(世羅, 甲山, 世羅西)

日本爬虫両棲類学会 日本産爬虫両生類標準和名リスト(2020年9月7日版) (http://herpetology.jp/wamei/index_j.php), 2020年9月26日.

宇都宮妙子・宇都宮泰明・大川博志・岡田 純・内藤順一 2001. 広島県の両生・爬虫類. p. 76-79. 中国新聞社, 広島.

(平山良太)

ニホンアカガエル 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Rana japonica Boulenger, 1879

カエル目(無尾目) アカガエル科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	日本固有種で本州・四国・九州・隠岐・大隅諸島に分布する。体長 40~70 mm 程度。背面は赤褐色、雌の腹面は繁殖期に鮮やかなオレンジ色となる。ヤマアカガエルに似るが、本種の成体の背側線は眼の後方から真っ直ぐ伸びるので区別できる。また、幼生の時期には背面に 2 つの斑点をもつことでヤマアカガエルの幼生と識別できるが、発生段階により見分けが難しいことがある。ヤマアカガエルと混生することがあるが、本種は平地に、ヤマアカガエルは山間で見られることが多い。低地では 1~3 月、県北部では 4 月頃に湿田や湿地、浅い池沼などの浅い開放水面の止水で産卵する。卵数は 500~3000 個、幼生は 5~6 月に変態する。
生息・生育状況	かつて平地の林縁部で普通に見られるカエルであったが、近年圃場整備や水田の放棄により産卵場所がなくなり、産地が減少している。沿岸部から県北部の平地・丘陵地の湿田や湿地などで局所的に見られる。今回の調査で吉備高原面に広く分布していることがわかった。
存在を脅かす要因・保全の留意点	産卵期に水場がなくなることによって個体数の減少だけでなく、産地そのものが消失している可能性がある。とくに沿岸部での産地の減少傾向が激しい。産卵は冬季から早春に行われるので、この時期に産卵場所となる浅い止水が必要不可欠である。圃場整備による乾田化や水田の放棄、太陽光パネルの設置などによる土地改良などが本種に与える影響は大きいと思われる。
特記事項	広島県 RDB2011 では学名が <i>Rana japonica</i> Gunter, 1858 となっていたが、今回、日本爬虫両棲類学会 Web サイトに従った。
産地情報	広島市(安佐北区)、呉市(呉、音戸、倉橋)、竹原市、三原市(三原、大和、本郷、久井)、尾道市(尾道)、三次市(三次、君田、吉舎)、庄原市(高野)、大竹市、東広島市(西条、八本松、志和、黒瀬、豊栄、河内、安芸津)、廿日市市(大野、佐伯、吉和)、安芸高田市(吉田、八千代)、江田島市(江田島、能美、大柿)、府中町、熊野町、安芸太田町(加計、筒賀、戸河内)、北広島町(芸北、大朝、千代田、豊平)、大崎上島町(大崎)、世羅町(世羅、甲山)、神石高原町(豊松、三和)

松井正文・前田憲男 2018. 日本産カエル大鑑. 272 pp. 文一総合出版, 東京.

比婆科学教育振興会編 1996. 広島県の両生・爬虫類. 163 pp. 中国新聞社, 広島.

(池田誠慈)

シコクハコネサンショウウオ 情報不足(DD) DD-b, DD-c

Onychodactylus kinneburi Yoshikawa, Matsui, Tanabe & Okayama, 2013

サンショウウオ目(有尾目) サンショウウオ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	四国に分布するハコネサンショウウオは Yoshikawa et al 2013 によってシコクハコネサンショウウオとして新種記載された。西中国山地の吉和冠山や十方山では Yoshikawa et al 2013 の中でハコネサンショウウオと混棲していることが報告されており、西中国山地のその他の生息地でもシコクハコネサンショウウオと混棲していると考えられる。全長は 13~16 cm で、背中の縦帯は黄褐色をしており、胸部斑紋がないことでハコネサンショウウオと区別される。約 10 万年前、四国と中国地方が陸続きになった時期(海退)の生証人である。
生息・生育状況	繁殖期は5月上旬から5月中旬で、雌雄は滲出水洞内で繁殖していると推察される。夏季でも水温は 8.5℃ 前後で低く、発生が遅いので、孵化は 10 月中旬から下旬である。冬季は滲出水洞内に留まり、翌春、滲出水洞から出て来る。生息には保水力のある夏緑樹林が必要である。吉和冠山や十方山ではシコクハコネサンショウウオとハコネサンショウウオが混棲しており、シコクハコネサンショウウオの繁殖が早いようである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	大規模林道やスキー場整備などの造成により、広範囲に森林伐採が行われると、森林が乾燥し、枝流が涸れることが予想される。また、近年の土石流などにより、滞筋が変わり、枝流の礫間が埋まり、餌である水生昆虫が生息できない環境になっている生息地もある。島根県では、脊梁部に風力発電のプロペラが設置され、林道工事の土砂が谷筋に投棄され、生息地が壊滅した地域もある。
特記事項	ハコネサンショウウオやシコクハコネサンショウウオの生息地では、ツクバビルが成体に 2~10 個体寄生している。繁殖期に水に入ってから、寄生を受けると考えられる。国内希少野生動物植物種。
産地情報	廿日市市(吉和)、安芸太田町(戸河内)、北広島町(芸北)

Yoshikawa, N., M. Matsui, S. Tanabe, and T. Okayama 2013. Description of a new salamander of the genus *Onychodactylus* from Shikoku and Western Honshu, Japan (Amphibia, Caudata, Hynobiidae). *Zootaxa*, 3693: 441-464.

宇都宮妙子・宇都宮泰明・大川博志・岡田 純・内藤順一 1996. 広島県の両生・爬虫類. (比婆科学教育振興会編), p. 120-121. 中国新聞社, 広島.

(内藤順一)

